

# 1

歌論

## 無名抄

本書↓p.4／解説書↓p.4

### 問二

㊦ ㊦ 理解する ㊦ ㊦ おつしやる

〈4点×2〉

### 問三

㊦ ㊦ マ行上一段活用・見る ㊦ ㊦ ヤ行下二段活用・見ゆ  
㊦ ㊦ サ行変格活用・難ず ㊦ ㊦ ラ行変格活用・侍り

〈2点×4〉

### 問四

1 ㊦ ナ行変格活用・連用形 2 ㊦ ワ行下二段活用・連用形  
3 ㊦ ヤ行上二段活用・連用形 4 ㊦ カ行変格活用・連用形

〈1点×4〉

### 問五

A ㊦ 田鶴 B ㊦ 竜

〈2点×2〉

### 問六

ア

〈8点〉

### 問七

雲に住むことがあるだろうか、いやありはしない。

〈6点〉

### 問八

深く考えずに他人を非難する癖があるから。(20字)

〈12点〉

# 2

日記

土佐日記

本書↓p.6／解説書↓p.8

問一 A ける B ける

5点×2

問二 (1) ある

10点

(2) 鳥の羽のようであるのだろうか。

10点

問三 イ

10点

問四 エ

10点

平家物語

本書 ↓ p. 8  
／ 解説書 ↓ p. 12

問

⑦ 長年・数年来  
⑧ 優美だ・上品だ

4点×2

問三

㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

2点×4

㉔ ㉕

問四

$$\hat{1 \text{ 点} \times 4}$$

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の種類
なし	な	(く) から	く かり	し ○	き かる	けれ ○	○ かれ	ク活用
いみじ	いみ	(じく) じから	じく じかり	じ ○	じき じかる	じけれ ○	○ じかれ	シク活用
きよらなり	きよら	なら	なり に	なり	なる	なれ (なれ)	(なれ)	ナリ活用
漫々たり	漫々	(たら) と	たり	たり	たる	(たれ) (たれ)	(たれ)	タリ活用

問五

(1) 促音便・ウ音便

2点

(2) 客人としてやって来てかなり長くお話しになる。

5点

問六

ア

5点

問七

忠度が荒々しく使う扇の音。(13字)

問八  
ウ

〈各7点〉

問九

イ

4点

# 4

歴史物語

## 大鏡

本書 ↓ p.11 / 解説書 ↓ p.17

問二 ㊦ 参上する ㊩ 退出する

〈4点×2〉

問三 ㊤ 尊敬・連用形 ㊦ 打消意志・終止形

〈3点×2〉

問四 (1)

〈1点〉

ず		未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	
ざら	(ず)	ず	ず	ず	ぬ	ね	○	未然形
ざり								接続
○								
ざる								
ざれ								
ざれ								

(2) 1 反実仮想 2 使役 3 使役

〈1点×3〉

問五 鬼につかまれたことによる恐怖を見せまいと我慢する様子。(27字)

〈10点〉

問六 ウ

〈7点〉

問七 イ

〈3点〉

問八 ア 問九 ア

〈各6点〉

# 5

説話

## 今昔物語集

本書 ↓ p.14 / 解説書 ↓ p.22

問二

㊦ ㉡ 徒歩で ㉠ ㉡ つまらない・無駄だ

〈4点×2〉

問三

㉢ ㉡ 願望(希望) ㉢ ㉡ 意志(勧誘) ㉣ ㉡ 受身 ㉤ ㉡ 推量

〈2点×4〉

問四

1 ㉡ エ 2 ㉡ ク 3 ㉡ キ 4 ㉡ ウ

〈1点×4〉

問五

せ／むず／らむ

〈4点〉

問六

1 ㉡ 女房の車から男のような大きな声がする(18字)

〈7点×2〉

2 ㉡ 乗っている人の正体がわからない(15字)

問七

イ・エ

〈6点×2〉

# 6

説話

## 寢覚記

本書 ↓ p. 16 / 解説書 ↓ p. 26

### 問二

㊦ ㊦ 交際する ㊦ ㊦ 格別である

〈4点×2〉

### 問三

㊦ ㊦ 強意(確述)・終止形 ㊦ ㊦ 完了・連体形  
㊦ ㊦ 過去の原因推量・連体形

〈3点×3〉

### 問四

1 ㊦ 思ったけれども、 2 ㊦ 討ったり討たれたり、  
3 ㊦ 出家がしたい。 4 ㊦ 苦しいことよ。

〈1点×4〉

### 問五

(1) もとの妻のもとにはめつたにも通わなくなってしまった。  
(2) ア

〈5点〉

### 問六

夫がもとの妻と会ったことに対する憤り。(19字)

〈8点〉

### 問七

イ

〈8点〉

## 問二

ア 〓 夜通し・一晩中 ① 〓 起こす

〈3点×2〉

## 問三

a 〓 完了(存続) b 〓 願望(希望) c 〓 過去 d 〓 打消  
e 〓 過去 f 〓 存続(完了) g 〓 完了 h 〓 詠嘆

〈1点×8〉

## 問四

① 〓 どんな人にも結婚させたく思ってたけれども、  
③ 〓 詠んだところ、

〈5点×2〉

## 問五

落ちぶれてしまい、輿や車に乗ることもできなくなったから。(28字) 〓

〈7点〉

## 問六

ウ

〈6点〉

## 問七

エ

〈7点〉

## 問八

(1) ウ

〈2点×3〉

(2) 今母之力不能痛(7字)

(3) D

# 8

軍記物語

## 平治物語

本書 ↓ p. 21 / 解説書 ↓ p. 35

問二

ア 幼い ① はかない命

〈3点×2〉

問三

a 推量・連体形 b 打消意志・終止形

〈3点×2〉

問四

1 来たらしい。

〈2点×3〉

2 朝日がさすように見える(朝日がさすようだ)。

3 音がするように聞こえる(音がするようだ)。

問五

① どのように知らないはずがあるうか、いや知っているはずだ。

〈5点×2〉

③ いとおしんでいるのだろう。

問六

三人の孫が、何事もなければ長く生きていくであろうということ。(30字)

〈10点〉

問七

エ

〈8点〉

問八

イ

〈4点〉



# 9

日記

## 土佐日記

本書 ↓ p. 24 / 解説書 ↓ p. 40

問二

- ㊦ ㊦ 趣深い ㊦ ㊦ つらい

〈4点×2〉

問三

- ㊦ ㊦ 断定・終止形 ㊦ ㊦ 完了・連体形 ㊦ ㊦ 存在・連体形

〈3点×3〉

問四

- (1) 1 ㊦ 例示・連体形 2 ㊦ 断定・連用形

〈1点×2〉

- (2) 1 ㊦ ウ 2 ㊦ イ 3 ㊦ ア 4 ㊦ エ

〈1点×4〉

問五

- (1) 同じようであった。

〈7点〉

- (2) 空に浮かぶ月が暗い海に映っている様子。(19字)

〈10点〉

問六

- ア

〈10点〉

## 問二

ア 〓 思いがけない

〈3点×2〉

イ 〓 みすばらしく姿を変える・地味な格好にする

## 問三

a 〓 ウ    b 〓 カ    c 〓 ク    d 〓 ア    e 〓 ケ

〈1点×5〉

## 問四

1 〓 長い爪で

〈2点×3〉

2 〓 することができないで、

3 〓 見たのに、

## 問五

手足が本当に汚い尼で、涙を流して念仏を唱える尼がございます。

〈7点〉

## 問六

イ

〈8点〉

## 問七

仏道修行に一心に励むこと。(13字)

〈10点〉

## 問八

ウ

〈8点〉

問

- ㊦ ㊦ かわいらしい(いとしい)
- ㊧ ㊦ (自然に)思われる

3点×2

問三

- ① 過去推量の助動詞「けむ」連体形  
② 過去の助動詞「き」連体形

3点×2

問四

- 1  
||  
工
- 2  
||  
才

$$\hat{1} \text{ 点 } \times 2$$

問五

- ① ㊦たいそうかわいらしい子どもまでできてしまったので、  
③ ㊦立ち止まることができないことがあって出発する

$$\langle 5 \text{ 点} \times 2 \rangle$$

問六

あまり会わない自分のことを忘れずに、たいそう慕ってくれる点。(30字)

問七

- (1) 一人と火取(完解)

5点

- (2)  
ウ

7点

問八

ウ

4点

## 問二

㊦ 並一通りでない・格別だ

〈3点×2〉

① 〓そのまま

## 問三

1 〓長くあつてほしいと思うものだなあ。

〈2点×3〉

2 〓ひっそりと隠れてしまうものよ。

3 〓お髪だなあ。

## 問四

ああ、せめてあのような身だけでもありたいものだ。

〈5点〉

## 問五

ア

〈8点〉

## 問六

和歌を贈ってきた主人はどのような風流人であるのかということ。(30字)

〈12点〉

## 問七

イ

〈7点〉

## 問八

(1) イ

〈2点〉

(2) ア

〈4点〉

問二 A ∥ 男 B ∥ 男 C ∥ 女あるじ

〈2点×6〉

D ∥ 男 E ∥ 男 F ∥ 女あるじ

問三 エ

〈8点〉

問四 夫が宮仕えに忙しく、妻である自分に誠実でなかったから。(27字)

〈15点〉

問五 もし女主人が酌をしないならば飲むまい。

〈7点〉

問六 ウ

〈8点〉

問二 ㊦ ㊦ まねをする ㊩ ㊦ つらく思う

〈4点×2〉

問三 ウ

〈3点〉

問四 1 ㊦ 逢坂の関(の番人)は(あなたを通すことを)決して許さない  
だろう。 ㊦ 1点×5

2 ㊦ 少しも違わなかった。

3 ㊦ 秋にはほとんど劣らないだろう。

4 ㊦ 毎回のようには参上することができない。

5 ㊦ 月をご覧にならないでください。

問五 ア

〈5点〉

問六 決して拌みなさるな。

〈7点〉

問七 優婆崛多が、仏をまねた自分(天魔)を見て感動し、拌んでしまったから。  
(30字) ㊦ 12点

問八 エ

〈10点〉

問二

ア 美しい ① 残念だ

〈3点×2〉

問三

a 謙讓・作者から帝

〈2点×3〉

b 尊敬・帝から帝

c 尊敬・作者から帝

問四

(1) 1 ム 2 ア 3 イ

〈1点×3〉

(2) 1 おやすみにならないで 2 申し上げよう。

〈1点×2〉

問五

帝はこれであろうとお思いになって、

〈4点〉

問六

エ

〈5点〉

問七

帝が自分を連れて行かず、元の姿を見たら帰ると言ったから。(28字)

〈12点〉

問八

ウ

〈7点〉

問九

イ

〈5点〉

問二

㊦ ㉔ 隔て心がない ㉕ ㉔ おつしやりかけてやめる

〈3点×2〉

問三

㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟

〈1点×4〉

問四

ア ㉟ 作者から宮

〈1点×4〉

イ ㉟ 作者から内の大

ウ ㉟ 皇子からかぐや姫

エ ㉟ 皇子から翁

問五

(1) 頼り申し上げなさっているだろうことが気の毒だ。

〈5点〉

(2) エ

〈7点〉

問六

ウ

〈4点〉

問七

自分が玉鬘に恋心を抱いているということ。(20字)

〈10点〉

問八

エ

〈5点〉

問九

エ

〈5点〉



17

歌物語

大和物語

本書↓ p. 44 / 解説書↓ p. 76

問一

①  
|| エ

②  
|| ア

〈10点×2〉

問二

イ

〈15点〉

問三

ア

〈15点〉

問二 ㊦ ししばしば ㊩ こたえて

〈4点×2〉

問三 (1)

非 <sup>ズ</sup> (匪)ニ <sup>ニ</sup> ス <sup>ス</sup> 一	書 <sup>書</sup> に非ず 〜ではない。
無 <sup>シ</sup> (莫・勿・母・亡)ニ <sup>ニ</sup> ス <sup>ス</sup> 一 <small>ヌル(コトモ)</small>	書 <sup>書</sup> 「(する(こと・もの)無し (が・は)ない。」
未 <sup>ダ</sup> ニ <sup>ニ</sup> ス <sup>ス</sup> 一 <small>(セ)</small>	書 <sup>書</sup> 未だ「(せ)ず まだ〜しない。」

〈1点×3〉

(2) 1 ㊦ 己の欲せざる所、人に施すこと勿かれ。

〈2点×2〉

2 ㊦ 爾未だ天命を知らず。

問四

(1) 私

〈4点〉

(2) 秦王

〈5点〉

問五 これをなすこといかん(。と。)

〈8点〉

問六 王はその弁の立つ使者の言うことを聞いてはいけません。

〈9点〉

問七 イ

〈9点〉

問二 まさに 問三 死ぬ

〈各4点〉

問四 (1)

〈1点×5〉

不 <sub>ニ</sub> 常 <sub>ハ</sub> 〱 <sub>(セ)</sub> ず	書 常には〱 <sub>(セ)</sub> ず	記 いつも〱するとは限らない。【部分否定】
常 <sub>ニ</sub> 不 <sub>ニ</sub> 〱 <sub>(セ)</sub> ず	書 常に〱 <sub>(セ)</sub> ず	記 いつも〱しない。【全部否定】
不 <sub>ニ</sub> 復 <sub>タ</sub> 〱 <sub>(セ)</sub> ず	書 復た〱 <sub>(セ)</sub> ず	記 二度とは〱しない。【部分否定】
復 <sub>タ</sub> 不 <sub>ニ</sub> 〱 <sub>(セ)</sub> ず	書 復た〱 <sub>(セ)</sub> ず	記 今回もまた〱しない。【全部否定】

(2) 未だ必ずしも賢ならず。

〈2点〉

問五 イ

〈6点〉

問六 (1) 甚だしくは信ぜず。

〈5点〉

(2) 縦は隠娘の忠告をそれほど信じなかった。

〈8点〉

問七 ウ 問八 イ

〈各8点〉

## 問二

㊦ ㊦すなわち ㊦ ㊦それ

〈4点×2〉

## 問三

(1)

不 <sub>レ</sub> 得 <sub>レ</sub> 不 <sub>ル</sub> ニ <sub>セ</sub> 一 <sub>セ</sub>	不 <sub>レ</sub> 能 <sub>ハ</sub> 不 <sub>ル</sub> ニ <sub>セ</sub> 一 <sub>セ</sub>
書 <sub>レ</sub> し(セ)ざるを得ず	書 <sub>レ</sub> し(セ)ざる能はず
書 <sub>レ</sub> し(セ)ざる能はず	書 <sub>レ</sub> し(セ)ざる能はず
書 <sub>レ</sub> し(セ)ざる能はず	書 <sub>レ</sub> し(セ)ざる能はず

〈1点×2〉

(2)

1 ㊦ 今まで一度も書を捨てて嘆かないことはなかった。

〈2点×2〉

2 ㊦ どんなものでも生長しないものはない。

## 問四

イ

〈6点〉

## 問五

(1)

自ら勉めざるべからず。

〈5点〉

(2)

自分で努力しなければならない。

〈8点〉

## 問六

必ずしもとから悪いわけではないが、後々の習慣によって悪い性質が身に付いた人。

〈10点〉

## 問七

ウ

〈7点〉

21

漢詩

無題

本書↓ p. 52 / 解説書↓ p. 92

問一 七言律詩

〈6点〉

問二 イ・ウ

〈6点×2〉

問三 エ

〈6点〉

問四 ア

〈10点〉

問五 まさにおぼゆべし

〈6点〉

問六 ウ

〈10点〉

## 問二

㊦ ㄥいえども ㊧ ㄥかくのごとし

〈4点×2〉

## 問三

(1)

何 <sup>ヲカ</sup> (奚)	ㄥ	ㄥスル	ㄥ	書	何をかゝ〔する〕
誰 <sup>カ</sup> (孰)	ㄥ	ㄥスル	ㄥ	書	誰かゝ〔する〕
安 <sup>ケン</sup> (悪・焉・奚・寧)	ㄥ	ㄥスル	ㄥ	書	安くんぞゝ〔する〕
孰 <sup>シカ</sup> (奚)	ㄥ	ㄥスル	ㄥ	書	孰れかゝ〔する〕
				ㄥ	どちらがゝか。

〈1点×4〉

(2) 1 ㄥどこにいるか。 2 ㄥ誰が学問を好きだと思うか。

〈2点×2〉

## 問四

ㄥどうして近寄ってくるのですか。

〈5点〉

## 問五

ㄥ鄭子が任氏を一心に思い慕うこと。(16字)

〈10点〉

## 問六

ㄥ相棄つるに忍ぶるか。(ㄥと。)

〈5点〉

## 問七

ㄥ

〈6点〉

## 問八

ㄥ

〈8点〉

問二 ア ㊦ かじん ㊩ ㊦ いな

〈4点×2〉

問三 (1)

安 クニカ 〔センヤ〕 ス	安くにかゝ〔せ〕ん(や)
如何 ソ 〔センヤ〕 ス	如何ぞ〔せ〕ん(や)
如何 ニ 一 何 セン	如何ぞ〔せ〕ん(や)

〈1点×3〉

(2) 1 ㊦どこに身を落ち着ければよいだろうか、いやどこにも落ち着ける所はない。

〈2点×2〉

2 ㊦お前をどうしようか、いやどうすることもできない。

問四 イ

〈6点〉

問五 どうして彗星については恐れるものでしょうか、いや恐れるものではありません。

〈6点〉

問六 安くんぞ能く衆口に勝へんや(。と。)

〈5点〉

問七 彗星の話を用いながら、多くの人民を苦しめている景公の悪政を戒めたということ。(38字)

〈12点〉

問八 ア

〈6点〉

## 問二

㉞ ㉞こう ㉞ ㉞こたえて

〈4点×2〉

## 問三

1 ㉞どうして 2 ㉞恥じないだろうか、いや恥じる

〈2点×4〉

3 ㉞避けない 4 ㉞なんと・ではないか

## 問四

信賴する樂正子春の言葉で、讒鼎が本物かどうか確かめること。(29字)〈9点〉

## 問五

(1) 胡ぞ其の真を以て往かざる(。と。)

〈5点〉

(2) どうして本物の讒鼎を持って行かないのですか、持って行つてはどうですか。

〈6点〉

## 問六

エ

〈8点〉

## 問七

I ㉞ウ II ㉞イ III ㉞エ

〈2点×3〉



問二 ㊦ ㊦ かつ ㊦ ㊦ あたわ

〈4点×2〉

問三 (1)

〈1点×3〉

遣 <sub>ム</sub> 二 A <sub>ヨシテ</sub> B <sub>(セ)</sub> 一	令 <sub>ム</sub> 二 A <sub>ヨシテ</sub> B <sub>(セ)</sub> 一	教 <sub>ム</sub> 二 A <sub>ヨシテ</sub> B <sub>(セ)</sub> 一
詔 <sub>詔</sub> Aを派遣してBさせる。	詔 <sub>詔</sub> Aに命令してBさせる。	詔 <sub>詔</sub> Aに教えてBさせる。

問四 不死の方法について、時間がかかって食客から学べなかったこと。(30字)

(2) 人をして題して門に活の字を作さしめ  
〈2点〉

問五 (1) 安くんぞ能く王をして長生せしめんや。  
〈5点〉

(2) どうして王に長生きをさせることができようか、いやできない。  
〈8点〉

問六 イ  
〈12点〉

問二 ㊦ ㊦ たちまち ㊦ ㊦ よりて (よつて)

〈4点×2〉

問三 (1)

〈1点×3〉

見 <sup>らる</sup> (被・為・所)ニ <sup>(セ)</sup>	書 <sup>る</sup> ・ <sup>(セ)</sup> らる ゝれる。ゝされる。
Aニ <sup>(セ)</sup> 於 <sup>(于・乎)</sup> Bニ <sup>(セ)</sup>	書 <sup>る</sup> BにAる・BにA <sup>(セ)</sup> らる BにAされる。
封 <sup>ほうせう</sup> ニ <sup>ル</sup>	書 <sup>る</sup> に封ぜらる ゝに領土を与えられる。

(2) 1 ㊦ 駆らるること犬と鶏とに異ならず。

〈2点×3〉

2 ㊦ 奴隸人の手に辱めらる。

3 ㊦ 若が属皆且に虜とする所と為らんとす。

問四 父親が村人に殺された。

〈6点〉

問五 イ

〈6点〉

問六 老人が馬をたたいて驚かせたことで、鹿を逃がしてしまったから。

(30字)

問七 エ

〈9点〉

〈12点〉

問二 ア 〓 まみゆる イ 〓 のみ

〈4点×2〉

問三 (1)

莫 <sup>シ</sup> 三 <sup>ニ</sup> 於 <sup>ハ</sup> A <sup>ヨリ</sup> 一 <sup>ニ</sup>	誤 <sup>書</sup> AはBよりも 〓
A <sup>ハ</sup> 不 <sup>レ</sup> 如 <sup>カ</sup> (若 <sup>レ</sup> ) B <sup>ニ</sup>	誤 <sup>書</sup> AはBに如かず 〓
〓	誤 <sup>書</sup> AはBに及ばない。(AよりBの方がよい。)
〓	誤 <sup>書</sup> Aより〓 (なる)は莫し 〓
〓	誤 <sup>書</sup> Aより〓であるもの(こと)はない。

〈1点×4〉

(2) 1 〓 霜葉は二月の花よりも紅なり。

〈2点×2〉

2 〓 百聞(数多く話に聞くこと)は一見(一度見ることに)及ばない。

問四 未だ嘗て従容たらずんばあらず。

〈5点〉

問五 軍隊を率いるときに最も重視するべきこと。(20字)

〈9点〉

問六 (1) 愛に如くは莫し(〓)と。

〈5点〉

(2) 兵士たちを大切にすることに及ぶものではありません。

〈8点〉

問七 イ

〈7点〉

問二 ア 〓 側近 ① 〓 そもそも

〈4点×2〉

問三 (1)

A<sup>ハ</sup> B。 (而<sup>ル</sup> 況<sup>ン</sup> C<sup>ヲ</sup> 乎。書 AはB。(而るを)況んやCをや。  
訳 AはBである。ましてCはなおさら(B)だ。

〈1点×4〉

A<sup>スラ</sup> 且<sup>ツ</sup> B。 況<sup>ン</sup> C<sup>ヲ</sup> 乎。書 Aすら且つB。況んやCをや。  
訳 AでさえもBだ。ましてCはなおさら(B)だ。A<sup>スラ</sup> 且<sup>ツ</sup> B。 安<sup>ク</sup> C<sup>セ</sup> (乎)。書 Aすら且つB。安くんぞC(せ)ん(や)。  
訳 AでさえもBだ。ましてどうしてCしようか、いやCしない。

(2) 凡人ですらよくないことを知る。まして賢人はなおさらだ。

〈2点〉

問四 秦西巴に持ち帰って猟で捕まえた子鹿を煮させた。

〈6点〉

問五 安くにか在る(。と)。

〈5点〉

問六 ア

〈8点〉

問七 まして人間(の子ども)はなおさら大事にする(15字(19字))

〈10点〉

問八 (1) 罰せられて疑はるるは未だ必ずしも偽ならず

〈3点〉

(2) エ

〈4点〉

問二 ア 〓およそ ① 〓かえ

〈4点×2〉

問三 (1) ① 〓惟・徒・但・只・直・特 など

〈1点×2〉

② 〓已・耳・爾 など

(2) 1 〓初めはとても狭く、やっと人が通れるだけだった。

〈2点×2〉

2 〓聖人に非ざるよりは、免れ難き所なり。

問四 イ

〈6点〉

問五 (1) 但だ衆木に於いて後と為るのみ。

〈5点〉

(2) ただ他の多くの木（松柏以外の木）に対して後になる（遅れる）だけだ。

〈6点〉

問六 松や柏だけは、春に芽生えた葉が成長した後で、古い葉が落ちる性質を持つということ。（40字）

〈9点〉

問七 ウ

〈6点〉

問八 エ

〈4点〉

問

② 徳のない人・つまらない人  
③ 仕える

$$\langle 4 \text{ 点} \times 2 \rangle$$

問三

(1)

シホ 猶(由) ニ ノ(ガ) 一	似(タリ) ニ 一	シ 如(若・似) ニ ノ(ガ) 一
書 猶ほゝの(が)ごとし ちようどゝのようだ。	書 ゝに似たり のようだ。	書 ゝの(が)ごとし のようだ。

$$\begin{matrix} \wedge & 1 & \text{点} & \times & 3 & \vee \end{matrix}$$

(2)

1 神業のようだ  
2 悪人のようではない

2点×2

問四

利益を好むつまらない者たちの派閥では、利益が尽きると交際が疎遠になるということ。(40字)

〔12点〕

12点

問五

(1) 終始一のごとし。

5点

(2)

工

8点

問六

六 君主は、偽物の仲間となるつまらない者を遠ざけ、真の仲間となる君子を登用すべきだということ。

(10点)

10点